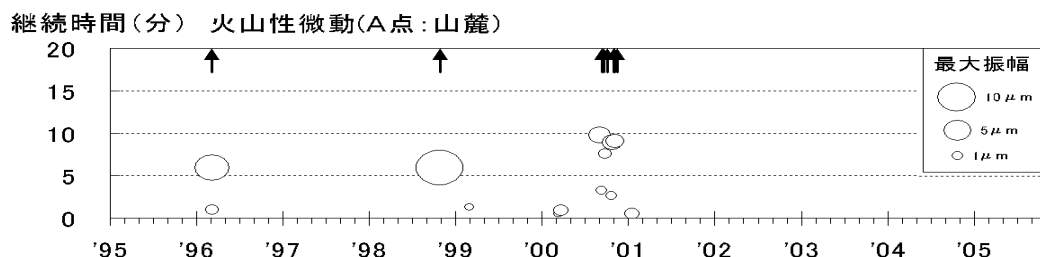
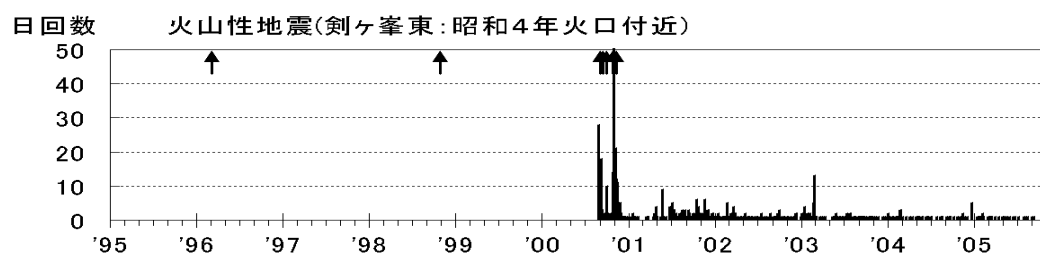
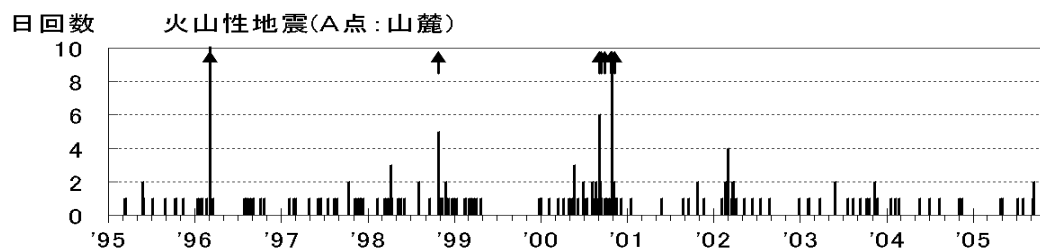
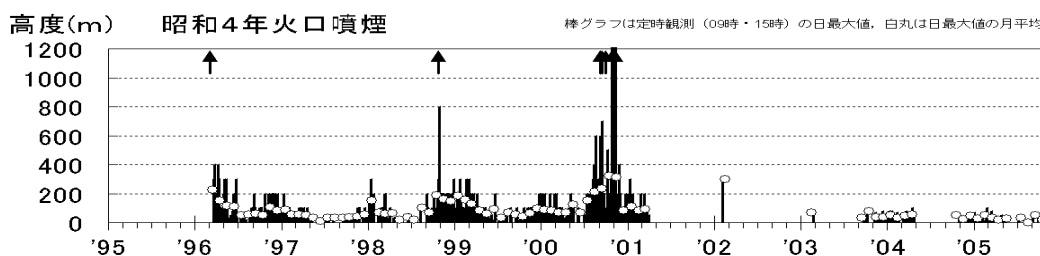
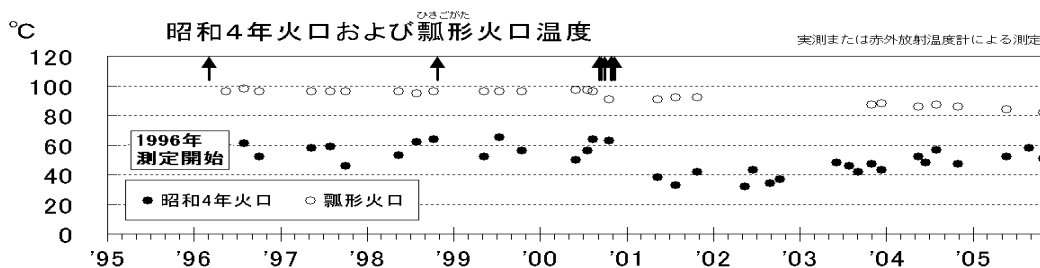


# 北海道駒ヶ岳

## 1 概況

24～28日に実施した調査観測では、各火口の状況に変化はありませんでした。火山活動は静穏に経過しています。わずかな山体膨張や、2003年9月以降見られている弱い噴気は引き続き観測されています。



最近の火山活動経過図(1995年1月1日～2005年10月31日) 印は噴火

2 噴煙の状況

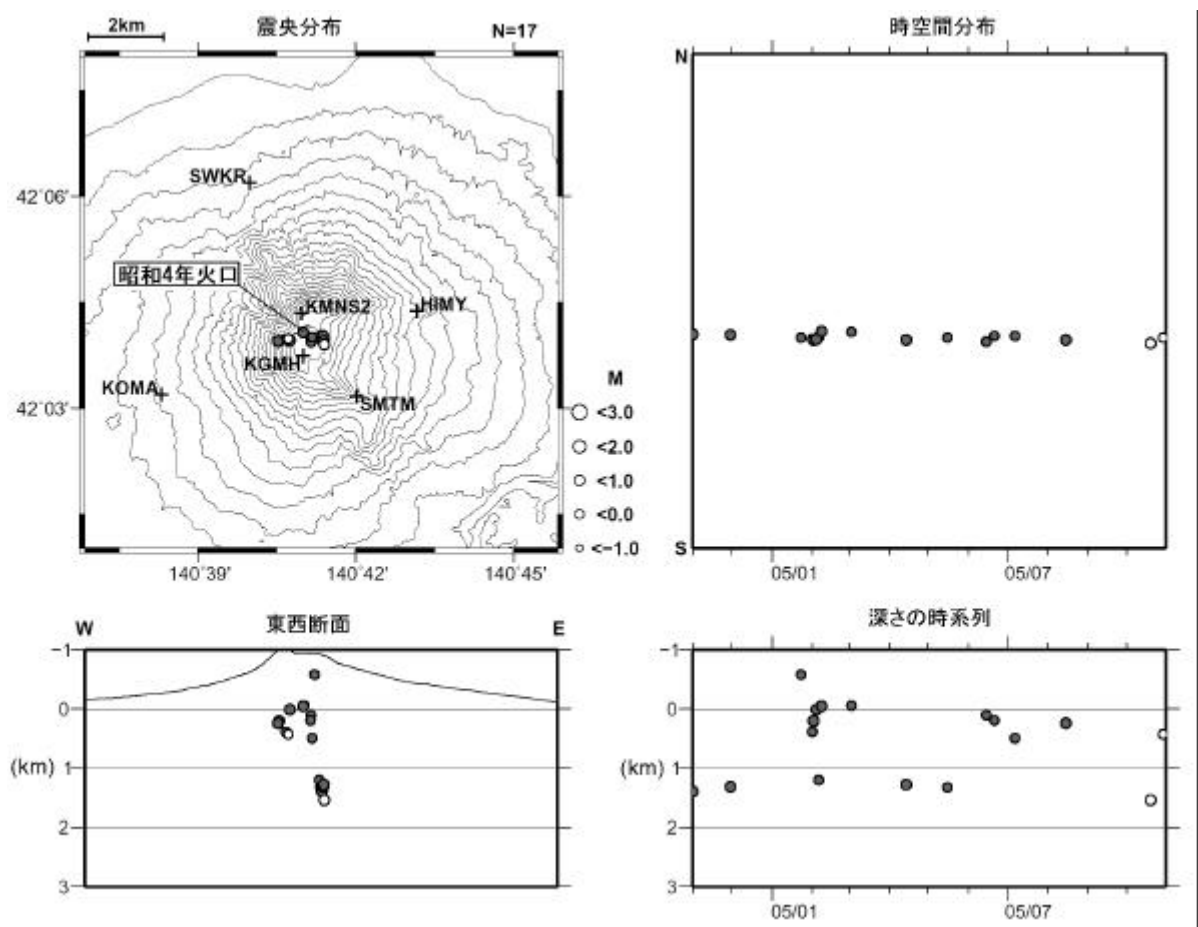
2003年9月以降、昭和4年火口からの弱い噴気がしばしば観測されています。

3 地震の発生状況

今期間、A点(震央分布図中 KOMA)で観測された火山性地震はありませんでした。山頂の剣ヶ峯東観測点(震央分布図中 KGMH)で観測されたごく微小な地震も少ない状況でした。火山性微動は2001年1月以降観測されていません。

地震・微動の月回数(剣ヶ峯東:山頂付近の観測点 A点:山麓の観測点)

2004~2005年	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
A点地震回数	2	0	0	0	0	1	1	0	2	0	3	0
剣ヶ峯東地震回数	7	5	4	8	6	2	4	3	3	3	1	4
A点微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



北海道駒ヶ岳の震源分布図(丸印:震源 +印:地震観測点)

印は今期間(2005年10月1日~31日)に求めた震源を示しています。

印は前期間までの約11ヶ月間(2004年11月1日~2005年9月30日)に求めた震源を示しています。

震源は大きく分けて山頂火口原直下の海面付近と海面下1~2kmに分布しています。

今期間に求めた震源も、この領域内に求まっています。

震源分布図の説明

東西断面 :震央分布で表示された範囲を東西面に投影して、地震の垂直分布を示した図です。

時空間分布 :震央分布で表示された範囲を時間経過とともに南北面に投影することで、震央の位置がどのように推移しているかを示した図です。

深さの時系列 :時間経過とともに震源の深さがどのように推移しているかを示した図です。



5 調査観測の結果

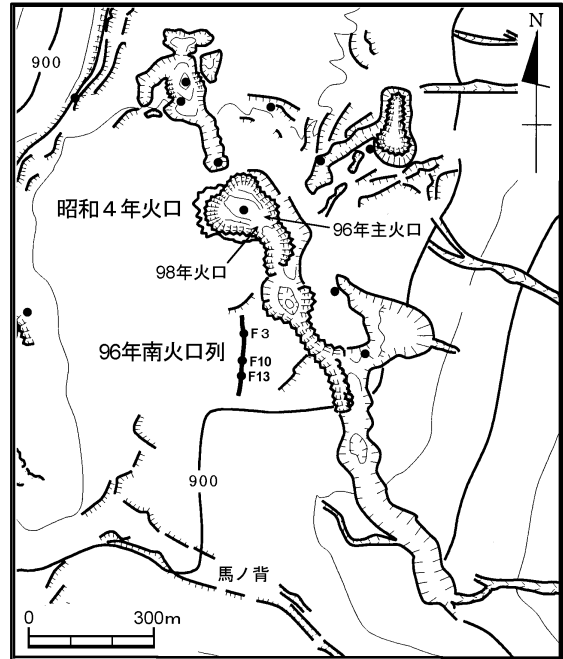
24～28日に実施した調査観測では、昭和4年火口の熱活動に大きな変化は見られませんでした。

【昭和4年火口】

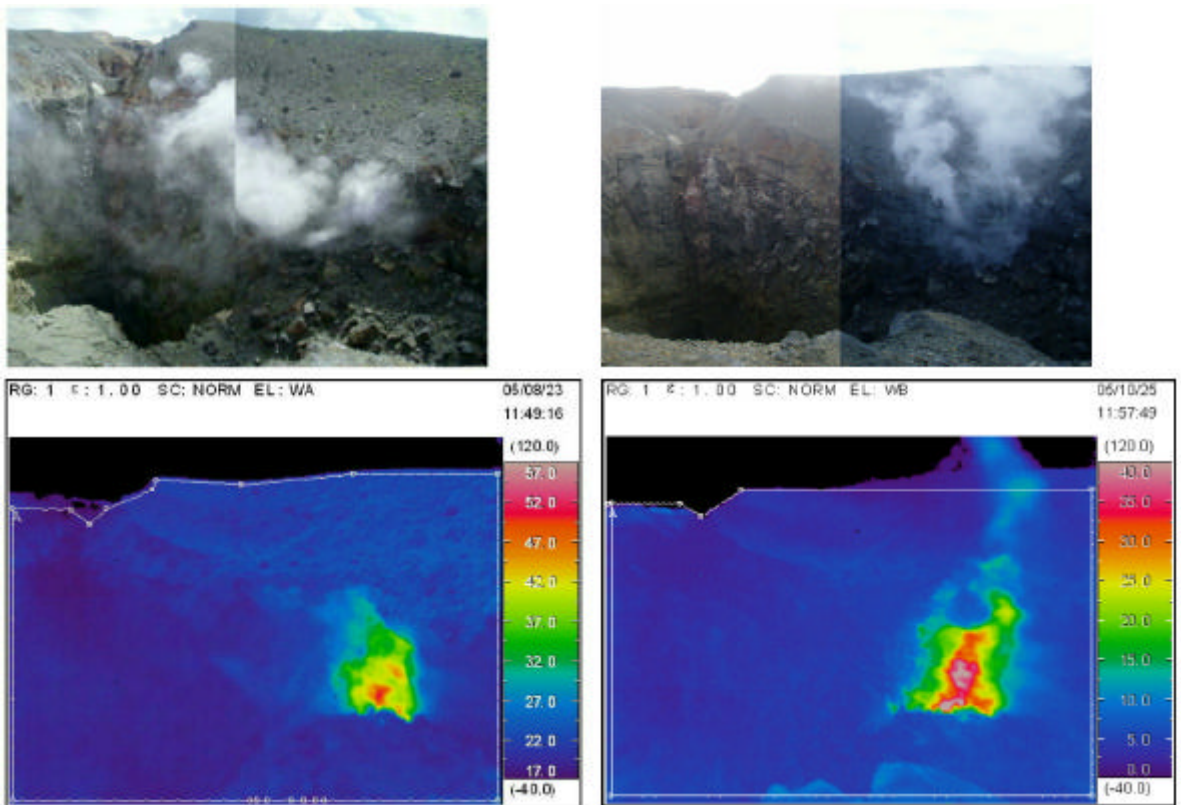
火口内の南側火口壁で弱い噴気活動が続いています。赤外放射温度計\*で測定(測定距離約120m)した火口温度の最高は51で、前回(2005年8月:58)と比べて大きな変化はありませんでした。

火口温度は2000年噴火以降、2001年に一旦低下しましたが、その後緩やかな上昇傾向を示しています。赤外熱映像装置\*による観測では、南側火口壁の噴気以外に高温域は認められませんでした。

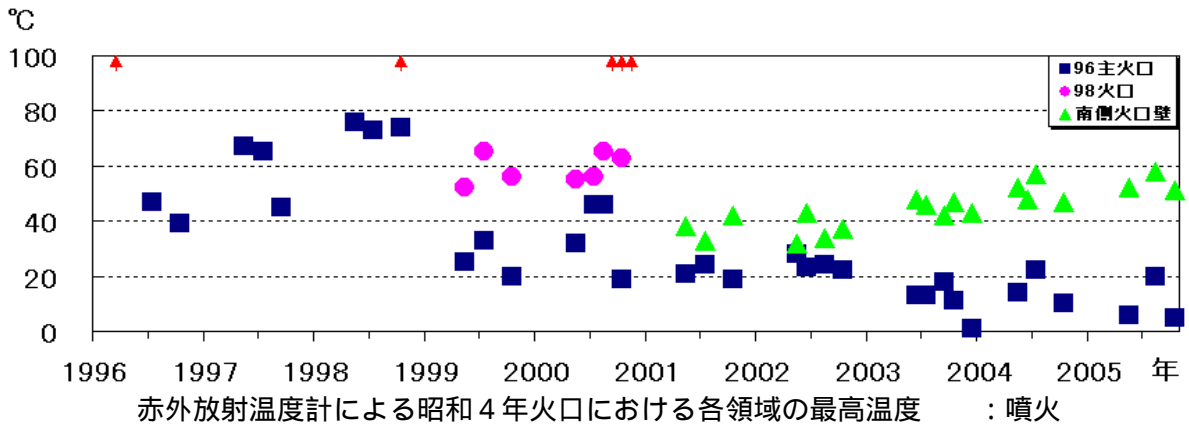
\* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。



駒ヶ岳山頂火口周辺図



北西側火口縁から赤外熱映像装置により測定した昭和4年火口内の表面温度分布  
(左図:2005年8月23日、右図:2005年10月25日撮影)



【96年南火口列】

火口列の所々で弱い噴気活動が続いています。火口列南側の噴気温度は低い状態が継続しており、火口列全体で見ると、熱活動は低下した状態が続いていると考えられます。

【その他の火口】

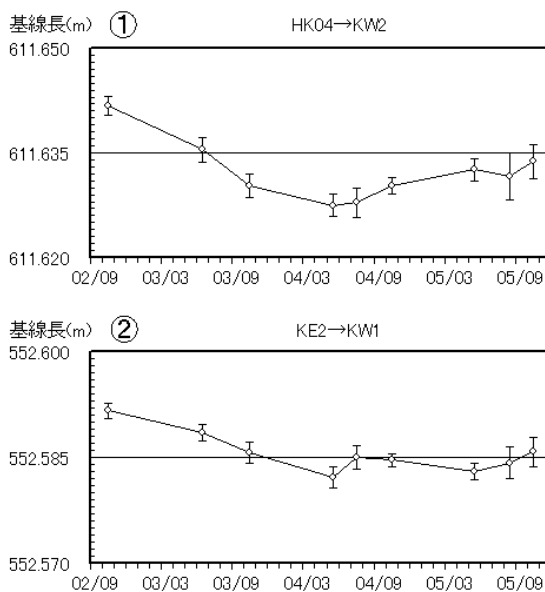
昭和4年火口周辺の瓢形(ひさごがた)火口、繭形(まゆがた)火口、明治火口でも弱い噴気活動が続いています。これらの火口の地熱域が拡大する傾向は見られません。

【GPS 繰り返し観測】

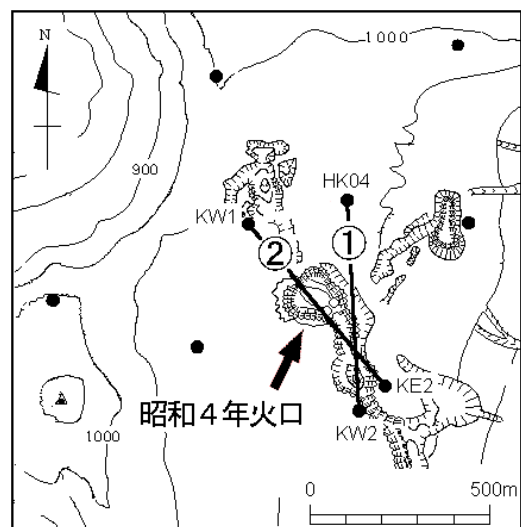
GPS 繰り返し観測では、昭和4年火口を囲む複数の基線で続いていた収縮傾向が2004年には反転し、わずかに膨張する傾向が認められました。今回の観測でも一部の基線を除き、その傾向が引き続き認められています。



96年南側火口列南側のF13噴気孔



昭和4年火口周辺の基線長変化

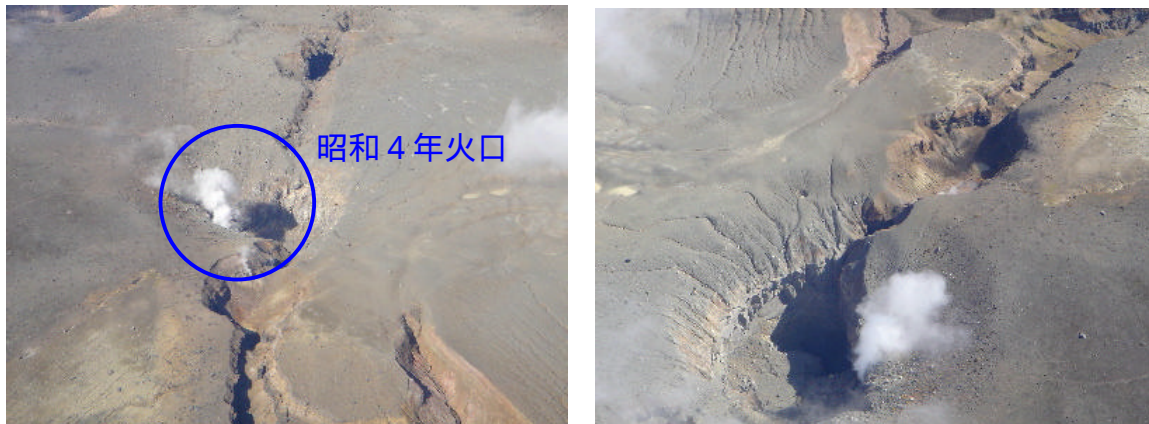


山頂GPS繰り返し観測点位置

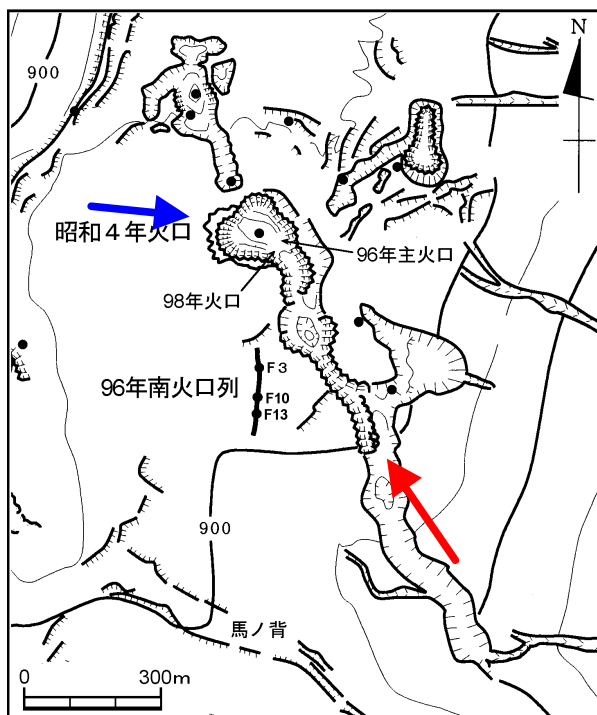
6 上空からの観測結果

10月12日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、本年8月に行った調査観測結果と比較して、噴気活動に変化は見られませんでした。

昭和4年火口では2000年噴火のあった南側内壁部分から立ち上がる少量の弱い白色の噴気が認められ、明治火口の西側内壁からはごく弱い白色の噴気が認められました。



左 南東側上空(下図 方向)から撮影した山頂火口列  
 右 西側上空(下図 方向)から撮影した昭和4年火口



駒ヶ岳山頂火口周辺図